

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0272400763		
法人名	有限会社 三浦建設		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字柳元276-1		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyohu.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0272400763&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年9月27日

(ユニット名 B棟)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭が広く、たくさんのお花や草花があり、目で楽しんだり、季節を感じる散歩コースには最適である。今年、庭園を一望できる場所に東屋を建設し、散歩の休憩場所等利用者の憩いの場となっている。「記録ノート」というものを準備しており、利用者の日々の様子、行事、レクでの楽しみ等さまざまな事柄を写真や文章で記録している。それを面会時などに家族に見てもらい、ホームでの利用者の様子を伝える手段の一つにしている。通信カラオケの機械を導入しており、曲数も豊富で好きな歌を歌ってもらうなど利用者の楽しみの一つになっている。年に一度の最大イベントとして夏祭りを開催して家族や地域の方々も招待し、利用者を中心に大きな楽しみとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成しており、日々のケアに取り組む上で反映させている。朝・夕の申し送り時に唱和し、廊下に掲示、パンフレットにも掲載している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の祭りの観覧を始め、町内会の行事に参加している。地元の小学校や保育所等の訪問等を通して交流を深めている。地域住民からの食材の提供も受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りの手伝いをお願いする際に個人情報に留意しながら利用者個々の特性、一般的な認知症の特性、接し方を職員が説明し、協力してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催でメンバーは積極的に参加しており、様々な情報を提供してくれている。利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、意見等をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、会議開催時はもとより日頃から積極的に外部評価の結果等を報告、配布し、協力関係を築いている。		

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	マニュアルを作成し、禁止の対象となる具体的な行為等について学習会を通じて職員は理解しており、やむを得ない利用者には承諾書を家族に説明し、書いて頂き、理由・方法・時間帯等を定めている。玄関は、自動ドアで鍵をかけていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や日々の支援を通じて理解を深めている。虐待を発見した時の報告は社長へ直接し、職員の虐待が明らかになった場合は免職とする取り決めをしている。日常的にも職員間で声がけし合う等、虐待を未然に防ぐよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議時の内部研修で全職員を対象に学習機会を提供している。家族にも目がつくよう玄関先に資料を置いている。カンファレンス時にも利用者個々の可能性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時に重要事項説明書等を基に利用者様や特に家族様には納得が得られるまで十分説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、また、家族の面会時に意見・要望等を聞き、それらを運営に反映させている。現在のところ、家族からの要望は出ていない。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月一回の全体会議、月二回のミーティングを開き、職員からの遠慮のない意見を聞いている。必要に応じて、個人面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には積極的に資格取得を勧めている。夏季・冬季手当は職員個々の努力、実績を勘案し、支給している。介護職員処遇改善交付金も活用している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、職員に応じて研修会の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・地区のグループホーム協会に加入し、研修会に参加させることで同業者との交流の機会を提供している。また、町独自のグループホーム協議会で研修・情報交換を行っている。資料等は回覧するなど全職員に周知している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安である事を十分に理解するよう努め、職員との信頼関係を深められるよう会話や仕草を通じて不安なことや要望等を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に家族の話を聞き、心配する心を十分に理解し、安心して入居させるよう不安・要望等を確認し、関係づくりに努めている。		

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人が今、何を必要としているかを見極めるよう注意深く観察するよう努めている。時間のかかる、または、対応が困難なニーズに対して方策を家族と共に検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝えるものがあるか一人ひとりの生活歴を考慮し、旬の野菜の調理、裁縫等各々が得意分野で力を発揮できるよう共同で生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子についてははたよりの郵送、面会時の連絡ノート等を活用し、絆を大切にし、共に支えている。問題が生じた時はもちろん、生じる原因になりそうな時にも連絡し、問題解決に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店(美容院、洋服店等)に出かけられるよう支援し、知人等の面会も歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが生じた際は即座に職員が仲裁に入るようにしている。孤立しないように個性を生かした作業分担を設け、利用者同士が支えあえる場面作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族にも夏祭りの案内状を出す等、必要に応じて相談や支援に努めている。		

自 外 己 部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集をし、一人ひとりの思いや意向を日々の会話や仕草等を通じて把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から十分ヒアリングを行い、関係者からも話を聞き、これまでの暮らしを把握し、支援内容に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや毎日の生活の記録を通じて心身状態を観察し、それを職員間で共有し、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見や要望を聞き、月二回のカンファレンス時や担当者会議を利用し、全職員で課題等を話し合い、介護計画を作成しており、個別具体的な内容になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を利用者個々のケースに記録している。介護計画の見直しへの反映についても朝・夜の申し送り、利用者ノートを活用し、全職員が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者は地域包括支援センター運営協議会の委員である。地区の民生委員、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員の協力を得て、利用者の個々の力を発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医に受診が必要な時は家族と話し合い、受診できるようにしている。利用者、家族が希望するかかりつけ医がいる医療機関を受診できるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は24時間を通じていつでも利用者に関する医療的な問題を相談する（看護職員を2名配置）ことができる。また、看護職員が付き添うことにより適切な受診を受ける事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、定期的な面会や医師や看護師と情報交換し、家族とも連絡しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への説明で重度化した場合や終末期のケアには対応していない旨を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、また、消防署員による救急救命の講習を職員が受講済で、急変時には対応ができています。急変時遠方にいる家族には、家族が施設に駆けつけるまでの取り決めをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を日中・夜間問わず、頻回に実施している。地区の民生委員等を通じて、協力体制を築いており、避難場所も確保されている。食料品は賞味期限の確認、飲料水は交換日を明記している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分配慮しており、常に利用者の人格を尊重し、言葉がけしている。居室前に表札を掲げているが、家族の同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に文字盤を使うケースがあり、一人ひとりにあった場面づくりをしている。外出する際は本人の意思を尊重し、自己決定する場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を第一に考え、業務を優先するのではなく、訴えがある時は後回しにせずその人にあった柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みで美容院（パーマ・髪染め）等の送迎の支援を行っている。ある利用者は化粧をすることにより、排尿時の失敗が少なくなった。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	色彩にも十分気を配り、メニューは旬の素材を使い、食事を楽しめるように配慮している。好き嫌いに応じて食事を提供している。食事の時は食べこぼしにもさりげなく対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ時や食事を通して、利用者の水分摂取量を把握している。その人にあつた介助用食器を使用するなどの配慮している。カロリー計算はしていないが、バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着者にはポリドント洗浄を行い、個々の利用者に合わせ、見守り、声がけ、一部介助等の口腔ケアを毎食後支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄リズムを十分考慮し、トイレにて安全かつ安心して排泄できるよう支援している。ある利用者は化粧をすることにより、排尿時の失敗が少なくなった。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を採るなど、メニューや食材を工夫している。毎日の軽い体操も実施している。安易に薬に頼らず、個々に合わせ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	無理やり入浴させず、シャワー浴、足浴を促すなどの取り組みをしている。基本週2回だが、その日によって入浴剤で変化をつけ、入浴を楽しめるよう工夫している。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の体操やその他の適度な運動を促し、安眠を促している。睡眠剤は家族、医療機関等と十分に検討したうえで服薬している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局にお願いし、氏名、受診している科を薬袋に記入し、誤薬を防いでいる。服用している薬品カードを個々のケースに入れ、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調、天気に配慮しながら、散歩、ドライブを楽しんでいる。また、カラオケ、大型スクリーンでのビデオ鑑賞も楽しんでいる。本人ができる作業の役割分担をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、ショッピング、選挙投票等で外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ジュースの販売機や外出先での支払い時には買い物訓練を行っている。自己管理できる利用者には少額だが所持させている。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきの代筆はないが、利用者あてのものは職員が代読している。利用者が使いやすいように、また、プライバシーにも配慮し、電話は子機を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節を感じさせる装飾をしている。日差しの強い日にはレースカーテン、日差し防止フィルムなどを使用し、快適な空間づくりに努めている。トイレにはドアがあるもレースカーテンを下げ、個々のプライバシーの配慮を行っている。職員同士の会話も大きい声では話さないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはベンチが置いてあり、利用者が一人になれる所がある。またホールには二畳の畳が敷いてあり、少人数での団らんができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌、家具、茶碗、はし等使い慣れた物を持ち込み、居室づくりには家族の協力を得て、より家庭的な雰囲気を味わえるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能が発揮できる手すりの設置、見やすいトイレマークの掲示等でできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		